

キーワード

地上デジタル放送

東京都立成瀬高等学校教諭 石田 洋

地上デジタル放送は、地上波デジタル放送とも称され、通称「地デジ(ちでじ)」と呼ばれている。

1996年にCS衛星を、2000年にBS衛星を用いて開始されたデジタル放送が、地上アンテナを介した地上デジタル放送として、試験的に2003年12月1日から関東・中京・近畿の一部で開始され、また主に携帯電話や携帯情報端末のような小さな画面に向けたワンセグと称される「1セグメント放送」も、2006年4月1日から開始されている。今後2011年7月24日をもって従来のアナログ波による放送は停波され、以後すべてのテレビ放送がデジタルで送信されることになる。

放送をデジタル化することには、以下のような利点がある。

- ①MPEG-2圧縮により、ハイビジョンのような高画質になる。
- ②CDのような高音質になる。
- ③地域の実情に合わせて、天気予報やニュースなど、地域に根ざした情報をデータ放送という形で視聴者に届けることができるようになる。
- ④視聴者参加型の番組のような双方向サービスを提供できる。
- ⑤カーナビや携帯電話などの移動体に向けた安定したサービス提供が可能となる。
- ⑥視聴者がサーバーに蓄積するサーバー型放送の実施が見込まれており、電波を有効利用できる。一方、デジタルであるが故の著作権等の問題点がある。現在では、コピー制御対応機器の使用をB-CASカードによる限定受信によって行い、さらに蓄積されたデータを1回だけコピーでき、元のデータが消去される(これをムーブという)コピーワンスによって著作権問題を管理している。このような特徴を持つ地上デジタル放送は、次の分野でユーザーの利便性を高めることが期待さ

れている。

- ◎ 電子申請・届出などの行政手続きの分野
- ◎ 災害発生時の情報提供の分野
- ◎ 医療／健康情報提供の分野
- ◎ 教育の現場での活用の分野

特に「教育の現場での活用」には、以下の点が期待されている(文部科学省「教育における地上デジタルテレビ放送の活用に関する検討会」報告書～デジタルで拓く学びの新時代～による)。

1) 良質な番組を活用した「わかる授業」の実現

臨場感あふれるハイビジョン方式による高画質・高音質の番組が実現することで、子供たちの興味・関心を喚起し、学習意欲を高めることができる。

2) サーバー型放送を利用した良質な教育用コンテンツの充実と、容易な授業利用

・学年、教科、項目などの簡単な入力操作で、自動録画・検索ができる。キーワードをサーバーに入力しておくだけで、対応するメタデータが付されている番組がすべて自動録画されるなど、容易にコンテンツの収集ができる。また、授業で利用する際も、キーワードを入力すれば、サーバーに蓄積されている該当する番組を容易に引き出し、子供たちに提示することもできる。

・サーバーへの蓄積とネットワークの活用で学校・教員間の教育番組、コンテンツの共有が実現する。教育センターや学校のサーバーに蓄積した番組を、高速ネットワークを利用して、どの教室からも簡単な操作で必要な箇所を取り出し、子供たちに提示する。先生同士の知恵を出し合うことによりコンテンツが改良される。

3) 地域からの情報発信の充実、地域放送局との連携

多チャンネル化による放送枠の拡大により、地域の特色のある取り組みを題材とした番組が増えていくことが期待される。

4) 参加体験型等、能動的な学習機会の充実

双方向性を利用して番組に対する質疑応答、アンケート等による参加体験型の授業が実現する。